

# 労働者の敵=真国労・動労革マルを粉碎・一掃!

## 日の丸うちふり「629マル生翼賛集会」で三塚・杉浦に「売国」

# 労働者千葉

86. 7. 7

No. 2287

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五(六・公衆)〇四七(二二)七二〇七

産業報国会へ転落  
した松崎「動労」が全国大会を断罪する  
NO.3

「こんにちは、動労の松崎でございます。ええー、お星さまが天に・・・今、国鉄を改革するということは本当に元気な国鉄になるということでしょう・・・ここまでできたなら合理化はやるべきものはほとんどやる必要があります。効率をどんどん高めていく必要があります・・・国労の諸君がどう言おうと、あるいは反対のためにイデオロギーのみを先行させる諸君がどう言おうと、やるべきことはやらあいいんです・・・『杉浦総裁は当事者能力がない』そう言うて国労の諸君がビラをまいていますよ。総裁に当事者能力がないの？あるでしょう、ありますよ、総裁には。だからこの総裁と我々は交渉しているんです・・・先程、総裁も『路頭に迷わせない』とおっしゃいました。自分で迷いたいと言っているやつは迷わしたらいい・・・」

動労は「雇用を守れない」

六月二十九日、東京で国鉄当局とマル生四組合「動労・鉄労・全施労・真国労」や職制などのマル生分子による「国鉄改革に取り組む職員の集い」なるマル生集會が行われた。

開會宣言のあと、参加者全員で「鉄道精神の歌」を歌い、あの右翼評論家・竹村健一の講演、そして中曽根・三塚のメッセージの後、国鉄総裁杉浦が「本日の集いは、国鉄始まって以来の快挙」とぶちあげ、それを受けてマル生四組合の代表がそれぞれたち、動労「松崎委員長」が前述の「決意」を表明したのだ。

動労革マル杉崎は、いまや身も心も中曽根に売り渡してしまった。「雇用を守る」と組合員をだましつづけ屈服に屈服を重ね、そのたびに合理化「過員が発生した。松崎の裏切りによって過員は運転に集中、現在運転の過員は三万三千人。そのうち一万五千名の首が切られるのだ。動労が「雇用を守る」と称したペテンはもはや通用しない。そして、国労をつぶして生きのころうという革マル杉崎

方針に対しても全国の動労職場では大混乱をきたし、それは不満から怒りに変わっている。

鉄労が動労組合員を守る？

松崎は「発言」の中で、「労働組合は一つの方が良い・・・今日は四組合が共同でアピールをだすべきだ。まあそれはそれとして・・・それぞれ言いたいことがあるのは決まっている。労働組合が分かれていなければならないから一緒にやる必要があるんです」と鉄労にラブコールを送っている。動労は、この一年間、裏切りと屈服を重ね「当局に雇用を守る」と約束(?)させたといってきた。しかし、いくら当局の忠実な奴となっても助けてもらえらと思つたら甘い。鉄労や当局、中曽根・三塚が本気で雇用を守ってくれるとでもいうのか。松崎は、動労三万を鉄労の下へさしだし、動労四二回全国大会へは三塚と杉浦を「招待」し、さらなる転向の証しをたてようとしているが、中曽根は動労をつぶしたいのだ。国労もつぶしたいのだ。裏切り者杉崎のために動労をつぶしてはならない。